

【第8回「忘れられない看護エピソード」入賞作品発表】

**最優秀賞は「患者さんの鼻くそ」(看護職部門)と
「ナースの頑固道」(一般部門)に決定!**

公益社団法人 日本看護協会（所在地：東京都渋谷区／会長：福井トシ子）は、本日（5月6日）、日本看護協会 JNA ホールにて、「看護の日・看護週間」中央行事として、第8回「忘れられない看護エピソード」表彰式・トークショーを開催しました。

「忘れられない看護エピソード」は、厚生労働省と日本看護協会が「看護の日・看護週間」にあたり、看護職と一般の方々を対象に、看護の現場で体験した心温まるエピソードを募集し表彰するものです。今回は全国各地から3,439作品が集まり、厳正な審査を経て次頁の通り入賞20作品が決定しました。

会場内では、抽選で招待された観覧者ら約250名が見守る中、最優秀賞・内館牧子賞などの発表と表彰に続いて、「看護の日」PR大使の中越典子さん（女優）が最優秀作品の朗読やトークショーを行い、華やかなイベントとなりました。

■最優秀賞

【看護職部門】	「患者さんの鼻くそ」	まつもと さちこ 松本 幸子さん	39歳	<大阪府>
【一般部門】	「ナースの頑固道」	こまつざき ゆみ 小松崎 有美さん	33歳	<埼玉県>

■内館牧子賞

【看護職部門】	「初めての看取り」	つは 津波 あけみさん	53歳	<沖縄県>
【一般部門】	「おたふく」	ひがし 東 のぶこさん	70歳	<東京都>



後列左から：厚生労働省大臣官房審議官 椎葉茂樹、中越典子さん、内館牧子さん、日本看護協会会長 福井トシ子

前列左から：津波あけみさん、小松崎有美さん、松本幸子さん、東のぶこさん

<報道関係のお問い合わせ先>

第8回「忘れられない看護エピソード」広報事務局 担当：副島、森田、武神

TEL：03-3583-6157 FAX：03-3583-6208

■入賞作品一覧

部門	賞	作品名	受賞者		
看護職部門	最優秀賞	患者さんの鼻くそ	まつもと きちこ 松本 幸子	39歳	大阪府
	内館牧子賞	初めての看取り	つば 津波 あけみ	53歳	沖縄県
	優秀賞	お母さん、ありがとう	みづかみ さちこ 水上 幸子	51歳	滋賀県
		かなちゃんのがんばりノート	すずき みか 鈴木 美香	49歳	愛知県
		白衣の戦士	はなおか 花岡 こすえ	24歳	長野県
	入選	朝日	こいずみ あかり 小泉 安香里	31歳	静岡県
		おにぎり	いそぬま 磯沼 チヨ	72歳	青森県
		言葉の意味	たけもと とうこ 武本 東子	44歳	福岡県
		フィリピンの空の下で	ひらた はつえ 平田 初枝	70歳	東京都
		本日は最悪です。	とま ゆり 戸間 有里	49歳	兵庫県
一般部門	最優秀賞	ナースの頑固道 <small>びんこみち</small>	こまつざき ゆみ 小松崎 有美	33歳	埼玉県
	内館牧子賞	おたふく	ひがし 東 のぶこ	70歳	東京都
	優秀賞	血管くん、ありがとう	くぼた けんたろう 窪田 健太郎	29歳	神奈川県
		手づくりのリハビリ帳	くさま としあき 草間 利明	56歳	神奈川県
		ラーメンいただきます！！ ～最後の職人魂～	おびなた しのぶ 大日方 しのぶ	41歳	長野県
	入選	受け止めることができた死	ふじい まさえ 藤井 正恵	66歳	大阪府
		奇跡は起こる	のざき としこ 野崎 利子	72歳	福島県
		自分らしく生きる	いわした としゆき 岩下 利行	47歳	東京都
		なかよし	ほしの ひろし 星野 宏	36歳	愛知県
		私の看護エピソード	まるやま かつゆ 丸山 勝也	77歳	埼玉県

※最優秀賞と内館牧子賞の4作品は、全文を次頁以降に収載しています。

(年齢は応募時)

■第8回「忘れられない看護エピソード」概要

【部門・応募資格】： ①看護職部門…現在、国内で看護職に就いている方、または過去に看護職に就いていた方

②一般部門…日本国内在住の方

【募集内容】： 「看護」を通して得られた忘れられない思い出やエピソードについて800字以内でまとめたもの。

【募集期間】： 2017年11月1日(水)～2018年2月2日(金)

【応募作品数】： 3,439作品

【賞金・賞品】： ■最優秀賞…賞金20万円(各部門1作品)
■内館牧子賞…賞金10万円(各部門1作品)
■優秀賞…賞金3万円(各部門3作品)
■入選…「看護の日」オリジナル「ナースキティぬいぐるみ2018」(各部門5作品)
■応募者全員…第8回入賞作品収載の小冊子(「忘れられない看護エピソード」集)

【審査員】： 特別審査員 内館牧子さん(脚本家)
厚生労働省・日本看護協会関係者など

【主催】： 厚生労働省、日本看護協会

【最優秀賞 看護職部門】

「患者さんの鼻くそ」

まつもと きちこ
松本 幸子 39歳 <大阪府>

へその緒。それは、お母さんと赤ちゃんがつながっていた証し。親子の絆。桐の箱に収められ親から子へと贈り伝えられる宝物。

さながら次世代へとつなぐ命のバトン……。

「〇〇ベイビーのへその緒がなくなりました」。朝一番の申し送りでこの言葉を耳にしたのは助産師2年目のときでした。それまでも何度か同じことがありました。しかし、ゴミ箱やオムツ入れの中を探せば必ず見つかりました。「きっと今回も出てくる」。根拠のない自信を抱きつつ、私たちはいつも通り業務をこなし始めました。「もう一度、病棟内を探し尽くしたけど見つからない」。夜勤者が看護師長に報告しているのを耳にしたとき、「大変なことになった」という思いと同時に、「手を尽くした結果だから仕方がない」と言い訳にも似た思いが複雑に交差しました。病棟全体が「仕方がないムード」に包まれていた午後、帰宅したはずの夜勤者の1人が疲れ切った表情で現れました。

「師長さん、やっぱり見つかりませんでした。すみません」。私は一瞬、状況が飲み込めずにいました。へその緒を諦めきれず、回収業者に連絡をし、ゴミ集積所に1人で出向いて探していたのです。看護師経験30年ぐらいのベテランさんでした。驚きを隠せない私の心を見透かしたように、すかさず師長は言いました。「例えそれが『鼻くそ』であったとしても、患者さんから預かった物は宝物のように大切に扱う。それが私たちの責任。母児、2つの命を扱う助産師の責任はもっと重たいで」と……。

その言葉が意味する、目に見えない重圧に一瞬、言葉を失いました。「助産師を生きる覚悟」を決めた、まさにその瞬間でした。

ことし、助産師18年目を迎えます。「患者さんの鼻くそ」は、事有るごとに私をあるべき方向へと導いてくれました。そして今、その覚悟を次世代へとつないでいきたいと願っています。さながら命のバツンのように……。

■まつもと きちこ 松本 幸子さんのコメント

とても素晴らしい賞をいただき驚いています。助産師として18年になりますが、当時の師長さんの一言が今に生きています。患者さんから預かったものはたとえどんなものであろうと責任をもって扱わないといけません。今では指導する立場になったので、技術よりも助産師の心構えを後輩に伝えていきたいです。

【最優秀賞 一般部門】

「ナースの頑固道」

ショートムービー化作品
(6ページ参照)

こまつぎき 小松崎 有美 33歳 <埼玉県>

「緊急入院です」。私が精神科に担ぎ込まれたのは去年のことだった。病名は摂食障害。体重が増えることを恐れて水さえ飲めなくなっていた。しかもこのとき妊娠7カ月。母親の命と赤ん坊の命。2つの命が危機的状況にあった。

真っ青な私とは対照的に看護師さんは太陽のようだった。その日から出産まで二人三脚が始まった。まず体重を増やすために毎食チョモランマのような白米が出された。しかし半分は机の引き出しに隠す。それでも看護師さんが来たとき、その黒い目はいっそう黒く光った。おなかに聴診器を当て、「ママ、おかわりって言ってるよ」。そう言うのだ。さらに「私はね、看護師だけど頑固師なのよ。絶対死んでほしくないの」と続ける。それを聞いて引き出しを開けずにはいられなかった。

それからというもの、巡回の際には必ず聴診器でおなかの「声」を聞いてくれた。さらに私のことを「ママ」と呼んでくれた。それによって私は一歩ずつ母親になっていった。

しかし、日がたつにつれ、出産への恐怖が強くなった。これまで満足に食事を取らなかったことで赤ん坊に何かあったらどうしよう。ああ、私は母親として失格だ。

予定日が近づくにつれ、気が遠くなる。あるときいてもたってもいられず、ナースコールを押した。不安な思いを打ち明け、泣きながら、「お母さん。お母さん」と言った。このときなぜ「お母さん」と言ったのか。今考えると看護師さんが母親のような温かい存在になっていたからだと思う。

そのとき、看護師さんが出したのは聴診器だった。最後の聴診器は私の胸に当てた。そして私の心の「声」を聞いてくれた。「つらかったね。大丈夫よ。赤ちゃんも大丈夫。ここまで来たんだから、わがままにママになりなさい」

これが彼女の信念。そして頑固道。私はこの言葉で覚悟を決めた。

そして母親になった今、うまくいかないときでもずうずうしく前を向ける。そう思えるのもやはり、あの頑固師さんのおかげである。

■小松崎 有美さんのコメント

長い間病気を患っていたので、一人の看護師さんとの出会いでがらりと人生が変わったような感じです。今では食べる喜びが分かるようになりました。身体もよくなり親子3人で楽しく過ごしています。主人にはいろいろと迷惑をかけてしまったので、感謝の気持ちと共に受賞の喜びを伝えたいと思います。

【内館牧子賞 看護職部門】

「初めての看取り」

津波 あけみ 53歳 <沖縄県>

精神科の看護師になって数年、忘れられないK氏との出会いがある。

K氏は、がんの末期で、骨まで転移し毎日のように痛みを訴え「痛い、痛い、もう死ぬよー。もう死ぬよー」と大きな声で、薬を要求していました。私は、仕事のたびに彼の元に足を運び、何かできることがないかを考えながら毎日を送るようになりました。

そんなある日、K氏が「もう、死ぬよ」と静かな声で話しました。私は、いつもと違うK氏に近寄り腰を落とし「もう死ぬの？」と問い掛けると、彼は「うん」と答えて遠くをまた見つめるのです。私は、なぜか「Kさんが死ぬとき、そばにいてもいい？」と許しを得るような気持ちで話すと、「いいよ」と優しい声で答えてくれました。K氏との空間が満ち足りた空気に変化しました。人はいつか死にますが、看取することは怖いものではない、とそのとき知りました。

10日ほどたった、私が深夜勤務のときです。病棟の出入り口の鍵を開けると、自分の体に、初めて感じる清らかで張りつめた空気。「K氏は今日逝く」と確信しました。呼吸が速くなり苦しそうなK氏でしたが、年配の男性看護師の「Kさん、まだまだ死ねないよー。深呼吸してみてください」との呼び掛けに励まされ呼吸をしているようでした。声は出せなくても、死に行く人は生きるために必死で声に応えようとできることをしているのです。

いつもなら不眠や幻聴で苦しみ、イライラしてナースステーションに誰かしら患者さんがいるものですが、その夜はK氏が亡くなるまで苦しみを訴える患者さんはいませんでした。

私は、彼が希望していたたくさんの小銭を胸ポケットにいっぱい詰め、手には財布を持たせ、自分の両手をK氏の胸にあて「そばにいるよ。そばにいるよ。ありがとうねー。ありがとうね」と話し掛けました。1分間に5回呼吸をして、K氏は逝ってしまいました。私は、この看取りを通して、人の尊重と看護の喜びを知りました。看護の魅力は、実践の中にたくさんあるのです。

【内館牧子賞 一般部門】

「おたふく」

ひがし 東 のぶこ 70歳 <東京都>

結婚して5年、3度目の妊娠。

子宮頸管無力症からくる習慣性流産で二度も失敗したので、慎重に暮らした。安定期に入ったころにまた出血。救急車のサイレンの音が「またダメ～またダメ～♪」に聞こえて、歯を食いしばった。「三度目か……」。

もうろうとした私の目に、愛らしいおたふく顔の、看護師が映った。「大丈夫、赤ちゃんの生存、成長が確認できました。赤ちゃんは頑張っていますよ」。出血も止まり、1日数回、本当かなと思いつつ、両膝上げ体操も素直に続けた。おたふくが目を細め「赤ちゃんもママに会いたいわって……」。白い歯がのぞく。希望が生まれた。夫も仕事帰りに、顔を見せる。「お前は、もう少しでママに放り出される場所だったのだよ。断固、食らいついてくれよ」とおなかをさする。出産は祈りだった。

時期を同じくして入院した隣の患者が、声を殺して泣いている。きっと流産か、死産だったのだ、と息を詰めていた。

後でその事情を知った。4人目も女の子なので、ご主人が見舞いに来ないらしい。

「ご主人さま、お忙しいのよ。ほおら、元気な赤ちゃんよ。ママに似て美人さんだー」とカーテン越しに聞こえる、おたふくの弾むソプラノ。

1970年代は、事前に性別は知らされず、ある意味楽しみだったはずなのに。隣の患者の事情を聞き、産めるかどうかの不安でいっぱいの私は「何とぜいたくな……」とつぶやいた。

ある日、おたふくがお隣さんに「姫が4人ってうらやましいわ、『細雪』みたい。年頃になったら、おうちの中は花御殿ね」。なかなか利口な方だ。

このおたふくになら何でも話せる、頭痛の種も少し遠のいた。

不思議と、かたくななお隣さんも、日々、やわらかい表情になった。

退院の日は、赤ちゃんをいとおしそうに抱くご主人の後ろ姿を追って、満面の笑みで病室を後にしていた。

いったい、おたふくは、どんなおまじないをかけたのかしら？

きっと、「お多福マジック」に違いない。

心温まる感動的な入賞作品をさまざまな場所でお楽しみいただけます。

- ①第8回「忘れられない看護エピソード」入賞作品パネル展！
- ②最優秀賞受賞作品のショートムービー公開！
- ③入賞作品集（小冊子）をプレゼント！

①第8回「忘れられない看護エピソード」入賞作品パネル展！

今回の最優秀賞、内館牧子賞、優秀賞、入選の合計 20 作品をパネルにして日本看護協会ビル内「JNA プラザ」で展示します。ご来場の方には、入賞作品を収めた小冊子「第8回『忘れられない看護エピソード』集」を差し上げます（なくなり次第終了）。

期 間： 5月7日（月）～6月29日（金）10：30～17：00（13：00～14：00を除く）
土・日曜は休館、入場無料
場 所： 日本看護協会ビル3階「JNA プラザ」（東京都渋谷区神宮前 5-8-2）

5月7日（月）～11日（金）は、お子さま向けのナースウェア試着体験・記念撮影も実施します。

②最優秀賞受賞作のショートムービー公開！

今回は、一般部門で最優秀賞を受賞した「ナースの頑固道^{がんこみち}」をショートムービー化しました。この映像を日本看護協会ホームページ（<http://www.nurse.or.jp>）で、5月7日（月）より公開します。

また、上記の入賞作品パネル展でも上映していますので、ぜひご覧ください。



③入賞作品集（小冊子）をプレゼント！

入賞作品を収録した小冊子「第8回『忘れられない看護エピソード』集」をご希望の方にプレゼントします（お1人様1部、送料無料）。

下記の①～⑥を明記の上、日本看護協会 広報部「冊子プレゼント」係まで、FAX、Eメールのいずれかでお申し込みください（なくなり次第終了）。

①郵便番号②住所③氏名④年齢⑤職業⑥電話番号

※記載いただいた個人情報は、冊子発送のためにのみ使用いたします。

<申込み先>

日本看護協会 広報部「冊子プレゼント」係

●FAX : 03-5778-8478

●Eメール : koho@nurse.or.jp

